

お遊戯会通信 (MEGUMI通信 第22号)

新高山めぐみ幼稚園 2024年2月15日 (木)



第46回 お遊戯会 オペレッタ・劇あそびのあらすじを紹介します



“やさいのパーティーおおさわぎ” (いちご組2歳児)



緑に光るやさい畑の真ん中に、キャベツ王子とトマト姫の住んでいるお城があります。



とても天気の良い日です。王子と姫は、やさい畑のパーティーを開くことにしました。

にんじん大臣がいうには、踊りの上手なレタスを呼んだ方が良いとのこと。早速バレリーナのレタスが、踊りながらやってきました。

次に呼ばれたのは、元気者のパセリ。次は歌の上手なレモン。……次々にお客さんが集まって、さあ、いよいよ大パーティーの始まり、始まり！

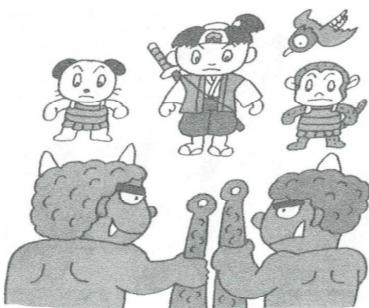
すると、そこへ魔法使いのマヨネーズさんがやって来て「私も仲間へ入れておくれ」。

「もちろんですよ。いいですよ」

こうして踊りが始まりました。

なんて素敵なパーティーなんでしょう。なんて愉快的なパーティーなんでしょう。

みんなはうれしくて楽しくて、うかれだしました。その時マヨネーズさんの体から、マヨネーズ光線が飛び出しました。あらららら……あっというまに、みんなおいしいサラダになっちゃった。



“ももたろう” (赤・桃・橙組)

むかしむかし……、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。ある日、おばあさんが川で洗濯をしていると、川上からとても大きなモモが「どんぶらこ、どんぶらこ」と流れてきました。おばあさんはそのモモを受け取り、おじいさんと呼んで、早速一緒に食べようと思いました。そのとき、モモの中から小さな男の子が出てきました。その子はモモから生まれた「ももたろう」。子どもが欲しかったおじいさんとおばあさんはとても喜び、大事に大事に育てました。

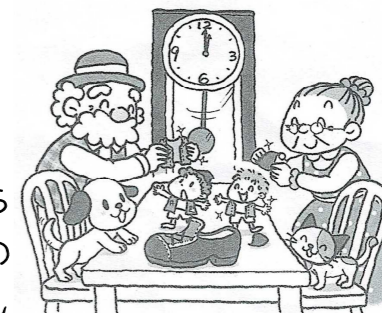
ももたろうはどんどん大きくなり、ある日「村人を困らせるオニを退治してくる」と言って旅立ちます。道中、イヌ・サル・キジと出会い、おばあさんからもらったきびだんご

をあげて、一緒に鬼ヶ島を目指します。鬼ヶ島に着いたももたろうとおともたちは、

力を合わせて手強いオニたちをこらしめます。オニたちは反省して、もう悪いことはしないと約束し、村には再び平和が訪れました。

“こびとのくつや” (黄・緑組)

ここは、街の貧しいくつやさん。くつを作ろうにも、皮がちょっぴりしかありません。ところが、みんなが寝静まった夜のうちに、こびとたちがやってきてくつを作ってくれました。しかもそのくつは、お客様に大好評！ 飛ぶように売れてしまい、おじいさんとおばあさんは皮をたくさん買うことができました。



しかし、おじいさんとおばあさんはぐっすり寝ていたので、こびとたちがくつを作ってくれたことを知りません。不思議に思ったおじいさんとおばあさんは、夜中にこっそり作業場をのぞいてみました。

こびとたちのやさしさに感謝したおじいさんとおばあさんは、お礼にチョッキや帽子を作ってプレゼントしてあげました。

“ひらけゴマ アリババととうぞく” (白・青組)

むかしむかしペルシャの街に欲張りでお金持ちの兄カシムと正直で働き者の弟アリババが住んでいました。

ある日アリババは盗賊たちが「ひらけゴマ！」と言い洞窟が開いて、宝の山をかくしているのを見つけてます。アリババは一つだけ宝をもらい、洞窟を出ました。

欲張りのカシムも宝を自分のものにしようと、合い言葉をとなえますが、合い言葉を忘れ洞窟はピクリとも動きません。

その後カシムは盗賊にみつきり、つかまってしまいます。それを知った踊り子たちは街1番の天才占い師マルジャーナに助けを求めます。

盗賊たちにつかまってしまったカシムの運命はいかに……

